

松川町立松川中学校

社会科 3学年

単元名 (題材名) 「地方自治と私たち」

授業者 小林 颯 (松川町立松川中学校)

指導者 北澤 健一 (南信教育事務所指導主事)

1 本時の主眼

様々な住民の立場で松川町について考える必要があることに気づいた生徒が、誰もが住みやすい松川町とはどのようなものか考える場面で、中学生以外の立場に立って予算案を作成したり、友達の考えやその根拠をもとにしながら再検討したりする活動を通して、誰もが住みやすい町を実現するための予算案を作成する。

2 視聴覚機器の役割

使用端末：電子黒板、タブレット端末

使用アプリ等：Google スプレッドシート

スプレッドシートに意見を記入し他者参照することで、誰もが学習活動に取り組めた。入力した数値をグラフ化することで、考えた予算案を比較しやすくなった。

3 授業の概要

学習問題

誰もが住みやすい松川町とはどんなもの？

学習課題

中学生以外の立場から予算案を作成して考えよう

中学生以外の立場に立って考えた松川町の課題を解消するために、限られた予算の中でどのように予算配分をすればよいか考える。スプレッドシートに入力した数値をもとにグラフを作成し、減らす予算項目について理由を考えたり、どの項目から減らしたりするのかについて、友の入力したシートを参照しながら考える。

まとめ

誰もが住みやすい松川町を考える上で、課題を解決するための優先順位を考えながら、様々な視点に立って課題を解消していくことが大切である。

Google スプレッドシートを利用して他者参照したり、実際に聞きに行ったりして自分の考えを再構築した。

4 研究会の要点

- ICT を活用した効率的な「他者参照」と「思考の視覚化」の構造化:個人の思考を一覧で共有でき、思考の様子が反映できるシートを整えたことで生徒が考えを持ちやすく活動がスムーズになった。
- 他者との比較を通じた自己の意見の強化と再構築:他者参照によって生徒が意見を知るだけでなく、自分の考えを深め、確かなものにするきっかけとなった。
- デジタル共有を契機とした「直接交流」による理解の深まり:ICTによる効率的な共有によって、その後の対話や交流が質の高いものになるきっかけとして非常に有効であった。

5 指導者の助言

- ・リアルタイムの他者参照を通じた思考の深化が達成できていた。スプレッドシートによる比較機能が、個人の学びを全体の学びに広げる上で効果的だった。
- ・根拠に基づき松川町を自分事として思考し、まとめることができていた。本時の内容に加えて、「よりよい松川町」についての討議を行うとより学びが深まるのではないかと。
- ・生徒が受け身にならず、自ら問いを持ち思考を深めることができていた。生徒同士の対話では、意見交換で終わらず、意見の再構築の場としての対話になっていることが重要である。

6 今後の課題

- ・「思考の深まりと意見の再構築プロセスの明確化」共有できるシートを用いることで、生徒が他者の意見を見ることが出来る。それを自分の意見に反映させ、考えを生み出すための工夫(時間の確保や変化の可視化)を考えていきたい。
- ・「ICT活用を起点とした対話・議論の促進」ICTによる意見の共有が効率的であった。共有をきっかけとして、考えを深める対話や議論の機会をさらに充実させたい。
- ・「教材設定の具体性と、松川町固有の課題設定」生徒が学習内容を「自分事」として捉え、地域の課題を深く考えるための教材開発を続けていきたい。

